

2016年2月16日提出

2014年度（後期）指定公募⑤
「発行済み無料冊子の再版への助成」

地域に根ざした看護職が行うグリーフケア
思いやりのあるまちづくりをめざして

聖路加国際大学看護学部
小野若菜子

I. 小冊子作成の経緯

訪問看護師が行うグリーフケアは、患者の生前から関わる看護師が、臨終時、看取り後まで継続的に関わるができるという特徴があり、その継続的関わりにより、看護師は、看取りの経験を家族と共有し、共感性の高い心理的ケアや適切な社会的支援を提供できると考えられた(小野, 2011a)。一方で、グリーフケアの実施については、方法の不明瞭さ、教育体制の未確立といった課題があった(小野, 2011b)。そのため研究者は、訪問看護師を対象としたグリーフケア教育プログラムの開発に携わった(平成 24-26 年度文部科学省科学研究費助成事業基盤研究 (C) 課題番号: 24593529)。その際、小冊子「地域に根ざした看護職が行うグリーフケア, 思いやりのあるまちづくりをめざして」を参加者に配布した。

近年、地域や近隣との関係性の希薄化、家族によるサポート力の弱まり、社会的孤立といった状況から、死別のサポートが弱まってきている。そこで、死別に関わってきた看護職が1つの社会資源として、グリーフケアを提供することができれば、地域における1つの強みになるといえるであろう。今回、小冊子を再版し、看護職等に配布することで、グリーフケアの教育や実施への助けになるのではないかと考えた。

II. 小冊子配布の実際

小冊子「地域に根ざした看護職が行うグリーフケア, 思いやりのあるまちづくりをめざして」600部を再版した。まず、各都道府県の看護協会(48カ所×2冊, 合計96冊)、看護系大学(253カ所×1冊, 合計253冊)に、公開されている施設名簿から住所録を作成し送付した。さらに、第20回日本在宅ケア学会学術集会において、ワークショップ「地域に根ざした看護職が行うグリーフケア-死別を考える、思いやりのあるまちづくりをめざして-」を主催し、参加者に約200冊を配布した。その他、関係者や看護職に約50冊を配布した。

小冊子を配布し、全国の看護協会や看護系大学へのグリーフケアの普及・啓発に取り組むことができた。また、ワークショップの参加者は、グリーフケアに関する意識が高く、よりよい交流の機会になった様子で、小冊子の配布が役立ったのではないかと考えられる。

III. おわりに

今回、小冊子の再版ができたことで、グリーフケアのよりよい普及・啓発活動に取り組むことができ、心より感謝しています。ありがとうございました。

<引用文献>

小野若菜子(2011a). 家族介護者に対して訪問看護師が行うグリーフケアとアウトカムの構成概念の検討, 日本看護科学会誌, 31 (1), 25-35.

小野若菜子(2011b). 訪問看護ステーションにおける家族介護者へのグリーフケアの実施に関する全国調査, 日本在宅ケア学会誌, 14 (2), 58-65.

*小冊子の再版は、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団により、2014年度(後期)指定公募⑤「発行済み無料冊子の再版への助成」を受けた。